公共施設用サインデザインの開発

尾形尚子　池本　周

1. 緒言

笠間市では道路景観整備事業の中で，地場素材を活用した（石材・焼き物）個性ある街づくりを実施している。そこで，焼き物の街，笠間市ならではの公共施設用サインとして，陶板によるサインのデザイン開発を実施した。美術・工芸のイメージを持つ観光地笠間にふさわしく，アート性を加味した斬新でオリジナリティーにあふれるデザインとした。

2. 試験内容

CG を利用しデザインされた公共施設用サイン（図1）をどれだけイメージに合わせ焼き物で表現出来るか，また，どこまで近付けるかを試みた。

凍害を防ぐ為に，強い大物土を使用し，更に強度を増すためにシャモットを混入した。

2.1 試作品

- 陶板タイル
- 使用粘土：大物土（白）
- 男性用（図2）：顔料（トルコ青−8%）
  色シャモット（トルコ青−16%）
  （紺青−4%）
- 女性用（図3）：顔料（陶試赤−10%）
  色シャモット（陶試赤−30%）
- サイン絵文字：色どべ（呉須−8%）
- サイズ：730X530X20mm

2.2 成型方法

- ニーダーによる粘土とシャモットの混合
- セラローラ使用

2.3 加飾方法

- 色シャモット，サンドブラスト
  （シャモットの粒は10メッシュと40メッシュの　　間を使用。下地の約20%を外割で配合）

2.4 焼成条件

- 焼成窯炉：電気炉，酸化
- 焼成温度：1250°C
- 焼成時間：16時間

3. 結果

現在，市内公共施設のサインとして好評を得ている。（図4）今後も，都市景観材料として色々な方面で活用出来るのではないか。

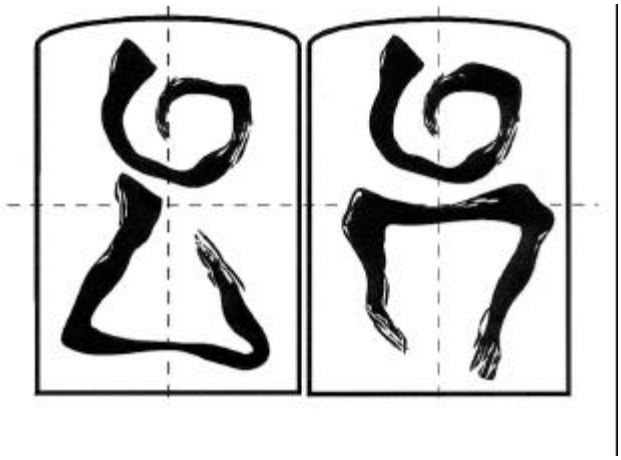

図1　CGによる

図3　女性用

図2　男性用

図4　市内　さわやかトイレ　外観